

函館山の歴史ポイント

北海道遺産 函館山と砲台跡(北海道)
日本の歴史公園100選 (社)日本公園緑地協会

函館山の歴史ポイント

当時の御殿山第二砲台(大正時代)



2 薬師山砲台跡



3 入江山観測所跡



4 千畳敷砲台跡(戦艦司令所)



函館要塞探訪

現在散策路沿いに見られる要塞跡 ▶



函館要塞は、明治28(1895)年の日清戦争終結後、日露戦争を想定し、津軽海峡の防衛強化を目的に、明治31(1898)年から、約4年間を費やして函館山に大小5カ所(御殿山第一砲台跡、御殿山第二砲台跡、立待岬堂跡、薬師山砲台跡、千畳敷砲台跡)に砲台が建設されました。

他の多くの要塞が軍港を守ることを目的にしたのに対し、函館要塞は商港である函館港を守るために建設されました。日露戦争開戦後、津軽海峡でロシア艦隊が日本の船舶に損害を与えましたが、射程外であったため要塞からは一発の砲撃もされませんでした。しかし、要塞の存在により函館港は攻撃されませんでした。

その後、大砲は撤去されましたが、大正に入り、米國を仮想敵国とし、海空の攻撃から函館と青森の両港を守り、津軽海峡における敵艦隊の通航を阻止するため、津軽要塞として再整備されましたが、航空機を相手とした実戦では役に立たず、函館は空襲に遭い甚大な被害を受けました。

函館要塞建設直後の明治32(1899)年に要塞地帯法が制定され、昭和21(1946)年に開放されるまでの約47年間、函館山への一般者の立ち入りは禁止されていました。

※ 御殿山第一砲台跡は、現在の山頂駐車場の下にあります。危険防止のため、一般者の立ち入りを禁止しています。

9 碧血碑(へっけつひ)

鳥羽伏見(現在の京都市)から始まった戊辰戦争は、函館(箱館戦争)が最後の舞台となり、明治2(1869)年5月、五稜郭の明け渡しとその幕を閉じました。

この戦いによる官軍の戦死者は、靖国神社をはじめ各地の招魂社(護国神社)へ手厚く祀(まつ)られていましたが、旧幕府脱走軍の戦死者は、賊軍の汚名を受けて、弔う人もおらずに死した。

この碑は、明治8(1875)年の7回忌に、箱館戦争で戦死した土方歳三や中島三郎助をはじめ、北関東から東北各地で戦死した、旧幕府脱走軍の霊を弔うために、柳川熊吉、榎本武揚、大島圭介などの有志により建立されたものです。

「碧血(へっけつ)」とは、「義に殉じて流した武士の血は3年経つと碧(あざ)に変わる」という中国の故事によるもので、柳川熊吉や旧会津藩の人々を中心に、函館碧血會(へっけつかい)ができ、毎年慰霊祭を行っています。近年は毎年6月25日(千代ヶ岡の決戦の日で、千代ヶ岡陣屋の守将中島三郎助父子らが討ち死した旧暦5月16日にあたります)には、碑前祭が行われています。



10 三重塔(碧血碑前)

昭和10(1935)年、箱館戦争の戦死者を悼むとともに、北海の靖鎮としての祈りを込めて、小樽弘安會が献納したもので、当時は銅製の牛の像が置かれていました。(牛の像には、人間に労働力や牛乳、肉、皮を提供してくれる牛たちへの供養を表現していた。)

しかし、第2次世界大戦中の昭和18(1943)年、金属類出のため失われ、現在の三重塔が建立されました。

11 与謝野寛・晶子の歌碑(立待岬)

与謝野寛・晶子夫妻が、愛弟子であった石川啄木の死後、昭和6(1931)年に函館を訪れ、啄木の義弟である岩崎都雨の案内で墓参した時に詠んだ和歌2首が、仙台石の石版に彫り込まれ、立待岬の丘の岩壁にはめ込まれています。

昭和32(1957)年設置

5 西国三十三観音像

天保5(1834)年、関西・紀伊方面の西国三十三霊場(西国三十三観音)の土を運び観音像を設置したため、「移土観音」とも呼ばれていた。函館山が湯川(とうせん)川に流れていましたが、戦後新たに山に再安置されています。

現在函館山では、各散策コース沿いに三十三観音像が称されます。(三十一番観音像は実行寺、三十二、三十三番観音像は称名寺の敷地内に安置されています。)

6 函館山登山の記

昭和49(1974)年に亡くなった、元函館市長宗藤大陸の功績をたたえらるとともに、同氏の任期中に完成した登山道開通20周年を記念して、有志により設置されています。

台座は自然石、碑は福石製で、碑面には宗藤氏直然の碑文が刻まれています。

7 皇太子殿下御野立所跡

明治44(1911)年、皇太子(後の大正天皇)が訪れ、函館山、函館公園、五稜郭などを視察され、訪れる先で盛大な奉迎の行事が行われました。

函館山では、函館要塞を視察され、休憩のための野立所が設けられ、この碑は来訪を記念して設置したものです。

8 柳川熊吉翁の寿碑

柳川熊吉は、安政3(1856)年に江戸から来て請負業を営み、五稜郭築造の際には労働者の斃命に貢献しています。

明治2(1869)年、箱館戦争が終結すると、敗れた旧幕府脱走軍の遺体は、「賊軍の慰霊を行ってはならない」との命令で市中に放置されたままでした。

新政府軍の処置に憤慨した熊吉は、実行寺の像と一緒に、遺体を集め同時に葬りましたが、その意気を感じた新政府軍の田島主策の計らいで、断罪は免れました。明治4(1871)年、熊吉らは函館山山腹に土地を購入して遺体を改葬し、明治8(1875)年、榎本武揚や大島圭介などの有志とともに、旧幕府脱走軍の戦死者を慰霊する「碧血碑(へっけつひ)」を建立しました。

大正2(1913)年、熊吉88歳の米寿に際し、その行いを後世に伝えるため、この地に寿碑を建立しています。

3 トーマス・ライト・ブラキストンの碑

ブラキストンは、1832年イギリスに生まれ、文久3(1863)年に日本での事業をおこなうために来函し、事業を継続しながら鳥類を採集・研究、気象観測も行いました。

明治12(1879)年には、函館滞在中に道内に捕獲した鳥類標本を開拓使函館支庁(現函館市)に寄贈しています。この標本は、現在北海道大学植物園・博物館に所蔵されています。

明治16(1883)年、本州と北海道の動物に著しい違いがあることを、アジア協会に発表して注目され、津軽海峡が「ブラキストンライン」と呼ばれるようになりました。

この碑は、昭和35(1960)年に、函館青年会議所が札幌出身の彫刻家、本郷新氏に依頼し、正面上部にブラキストンのブロンズ像がはめ込まれた黒銅影石、裏面は白銅影石で、碑文が刻まれたブロンズ版がはめ込まれて設置しています。

4 青函連絡船海難者の慰霊碑

元々は、戦時中に殉じた職員を慰めるために、昭和28(1953)年に建立されたものですが、洞爺丸台風(昭和29年)での殉難者も後に合祀されています。

この碑の横には、洞爺丸と同じく遭難した北見丸、第十一号丸の連絡船乗組員の慰霊碑が建立されています。

1 函館山の碑

この碑の前からは、天気の良い日には、遠く駒ヶ岳が眺望でき、函館山を訪れる人の多くが、記念撮影を行っています。

平成元(1989)年設置

2 伊能忠敬北海道最初の測量地

伊能忠敬は、日本最初の測測地帯を作成するため、寛政12(1800)年に幕府の許可を受け、東海岸から根室まで蝦夷地の実測を行いました。その起点が函館山であったことを記念して、昭和32(1957)年4月、函館市が御殿山山頂展望台の側面に青銅製の碑を建てて設置しています。

函館山ハイキングコース

入江山コース 歩行時間: 約30分 所要時間: 約50分	七曲りコース 歩行時間: 約90分 所要時間: 約120分
観音コース 歩行時間: 約120分 所要時間: 約140分	宮の森コース 歩行時間: 約140分 所要時間: 約160分
薬師山コース 歩行時間: 約150分 所要時間: 約170分	エンタタ山コース 歩行時間: 約140分 所要時間: 約160分
田舎山道コース 歩行時間: 約30分 所要時間: 約50分	地蔵山コース 歩行時間: 約30分 所要時間: 約50分
つづみ谷コース 歩行時間: 約160分 所要時間: 約180分	千畳敷コース 歩行時間: 約120分 所要時間: 約140分
手置山コース 歩行時間: 約100分 所要時間: 約120分	夕見山コース 歩行時間: 約90分 所要時間: 約110分



立待岬